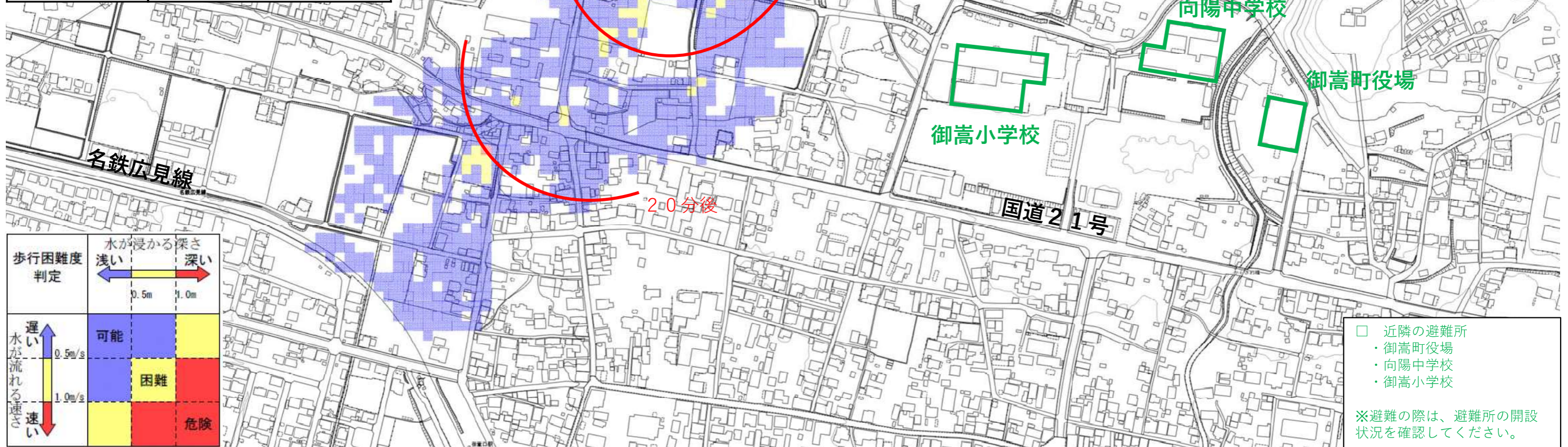


# 浸水想定区域図 (西門前ため池・西門前第2池・禅堂平池)

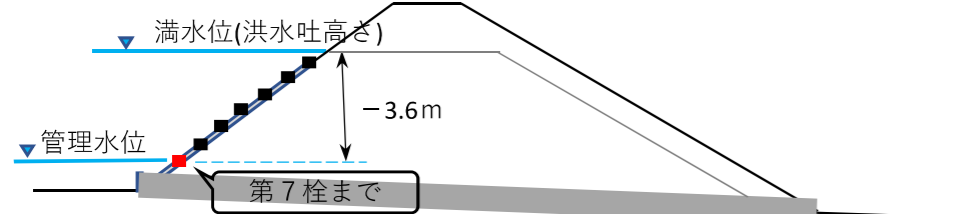
本紙記載の3つのため池は適切な管理がされており、決壊の可能性は非常に低いですが、堤体決壊時の影響範囲を示したものがこの浸水想定区域図です。  
貯留水が一気に流れ出す最も危険な場合を想定し作成されています。  
池の下流にある水田においては、水深が50cmを超える可能性があります。  
浸水想定区域図を参考に非常時の避難方法を確認しましょう。

ため池諸元	
西門前ため池	貯水量 2千m <sup>3</sup> 堤高 6.2m 洪水吐形式 越流堰型 改修歴
西門前第2池	貯水量 0.12千m <sup>3</sup> 堤高 4.1m 洪水吐形式 越流堰型 改修歴
禅堂平池	貯水量 1千m <sup>3</sup> 堤高 5.2m 洪水吐形式 越流堰型 改修歴 平成14年度



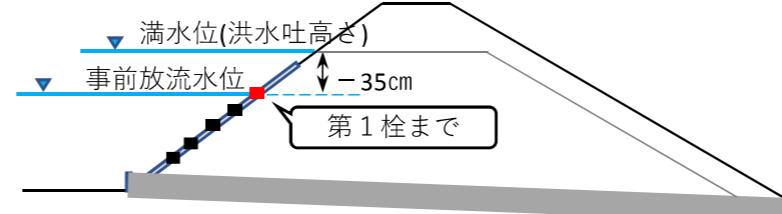
## ため池管理水位 (西門前ため池)

①農閑期(10月~12月)



西門前ため池においては、農閑期に低水位管理を行うことで地震による決壊被害を小さくできます。大雨や台風通過が予測されるときには、事前に水位を下げておくことで越水や決壊のリスクを小さくできます。西門前第2池及び禅堂平池においても同様に管理をすることで、貯水容量が確保でき、より効果的です。

②大雨・台風予報時(かんがい期(1月~9月))



ため池管理状況	ため池上流域について
---------	------------

・草刈り：年2回  
草刈り時に堤体及び施設の点検(ため池管理アプリや点検チェックシートによる)

・管理水位：左記による  
(西門前ため池)

・管理手法について  
ため池管理マニュアル⇒



本ため池は、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域内にあるため、注意が必要です。  
また、浸水想定区域においても、土砂災害特別警戒区域と重なっているエリアがあるため注意が必要です。